新幹線プレス

2014年1月22日	No.148
発行者	成　田　隆　浩
編集者	教　宣　部
ＪＲ東海労新幹線地本	

大丈夫か!?リニア中央新幹線!!

JR東海は環境への配慮が足らない!!

リニア中央新幹線の環境影響評価について、神奈川県の審査会で委員からの疑問の声が上がっていることが、１月１８日の朝日新聞に報じられました。

ＪＲ東海が出した「環境影響評価基準書」に対して委員から、「数字が違う。信じていたが疑問だ」「『大丈夫だ』というがどう大丈夫なのか」というとの疑問の声が噴出しているという。

また、今月１９日に川崎市宮前区で開催された「公聴会」では、ＪＲ東海の説明に対して「誠実に答えていない」「内容が不十分。出しなおすべきだ」と反対意見が相次いでいます。

これでは、ＪＲ東海は「ペイできないリニア」建設のために環境への配慮をなおざりにして見切り発車したと言わざるを得ません。

2014年(平成26年)1月18日　土曜日　朝日新聞　神奈川

リニア環境に苦言続々

リニア中央新幹線の環境影響評価について、県の審査会で委員から疑問の声があがっている。2027年の東京・品川―名古屋間開業まで10年以上かかる大工事にもかかわらず、JR東海の環境への配慮が足りないとの指摘が中心。審査会は3月に答申を知事に出すが、委員らの厳しい意見が盛り込まれる見通しだ。

県審査会委員「JR東海の資料に不信」

「数字が違う。信じていたが疑問だ」「『大丈夫』というがどう大丈夫なのか」。17日に開かれた県の環境影響評価審査会（会長＝益永茂樹・横浜国大教授）。学者や弁護士ら18人で構成）。専門家からはJR東海に対する厳しい意見が続いた。

昨年9月にJR東海が県に出した「環境影響評価準備書」を審議する4回目の会合。これまでも「（環境保護の計画に）リアリティーがない」「もっと丁寧な資料を出してほしい」などの意見が続出している。

例えば、残土の処理だ。県内を通る38・4㌔のうち、96・7％がトンネル。準備書によると、県内で東京ドーム9・2杯分に当たる1140万立方㍍の残土が出る。JR東海は「9割を再利用する」としているが、3割分の360万立方㍍を東扇島の盛り土にすること以外は具体的な処分方法を示していない。

昨年10月の会合で、廃棄物に詳しい藤倉まなみ委員（桜美林大教授）は「いろいろなところに残土処分場ができ、生態系が破壊されるのが怖い。きちんとしてほしい」と注文を付けた。

県の環境影響評価審査会＝17日午後、横浜市中区

審査会の各委員から出ている意見

騒音
・列車の走行騒音が、環境基準を上回る場所がある恐れがある。

水資源
・車両基地周辺の水質のいい川に排水を流して、生物は大丈夫か。
・排水を流す川の水質調査の地点数や回数が少ない。
・トンネル周辺の井戸や地下水を使う施設への影響を調べるべきだ。

交通
・橋本駅近くにできる中間駅周辺の交通への影響予測が粗い。

文化財
・遺跡など埋蔵文化財への影響をできるだけ少なくしてほしい。

その他
・トンネル残土の処理方法が具体的でない。
・二酸化炭素の排出量の具体的低減策を示すべきだ。

「水質の現地調査、不十分」

他にも、環境への負荷を検討するベースとなる現地の気象や川の流量などの調査が不十分だとの指摘も多い。

昨年11月の会合では、河川生態学が専門の丸山隆委員（元東京海洋大助教）が、相模原市緑区鳥屋地区にできる50㌶の車両基地の排水が流れる予定の川の水質の測定を、2地点でそれぞれ2回しか実施していないことを挙げ、「統計的に意味のあるやり方でやってください」と指摘した。

詳細なデータや具体的な対処方法を示したがらないJR東海に対し、「これでは判断できない」「審査のしようがない」という指摘も相次いでいる。

JR東海は昨年11月の会合で「国の認可後に具体的な対策を取る場所が決まる。今の段階で、こういったものがあると示している」と説明。だが、大気科学が専門の片谷教夫委員（桜美林大教授）がすべき方法を示していない。

ま「今のアセスはベスト追求が当たり前。その回答自体が、アセスの精神に反している」と切り捨てた。

審査会はあと2回の会合を経て知事に意見を答申し、知事は3月25日までに意見をJR東海に出す予定。だが、17日には「JR東海がきちっとしないなら、審査期間を延ばすべきだ」（弁護士の冨沢広幸委員）という意見さえ出た。

答申、厳しい意見か

ある委員は「環境配慮へのやる気がまったく感じられない。今回の答申は、県の審査会史上最も多くの指摘や意見が付くだろう」と語す。別の委員は「国の手続きにのっとったプロジェクトだから」「他県もあるので、神奈川だけ情報は出せない」とJR東海は言う。巨大事業を担う大企業の環境への姿勢がこれでいいはずがない」と憤る。（久保智）